

# 豊川とともに生きる 豊川とともに生きる

下地町～豊橋(旧吉田橋)



明治中期頃の「豊橋」

←東海道名所風景「吉田」



古くから、下地の人々の生活には、豊川の恩恵と災害の苦しみの両方の側面がありました。

## 東西交通の要衝 幕府直轄の橋

吉田川（豊川）の架橋は、1570年、酒井忠次が下地と関屋口を結んで土橋を架けたのが始まりとされています。洪水のたびに流されていたため、豊臣秀吉の小田原攻めの際にも、渡ることができず、3日待たされたとの記録もあります。1590年、池田輝正によって、やや下流で木橋に架け替えられました。1688年の記録では、橋の長さは172メートル、幅7.2メートルだったそうです。吉田橋の修理、架け替えは、江戸時代を通じて三十数回行われました。大正5年には、それまでの木橋を改め、初めて鉄橋になりました。

現在の「豊橋」は、1986年に完工したものです。戦後新たに架けられた「吉田大橋」に交通の主流は移りましたが、「豊橋」から下地の旧東海道沿いには、往時の賑わいを忍ばせる常夜灯や一里塚、芭蕉塚、古い町並みなど多くの史跡が残されています。



大正時代に鉄橋になった「豊橋」



現在の「豊橋」